

銀河レポート401

No. 52
9月号

発行日：令和元年9月1日
編集&発行：四日市市立博物館
プラネタリウム
電話：059-355-2700
HP：<https://www.city.yokkaichi.mie.jp/museum.html>

9月の星空

やぎ座

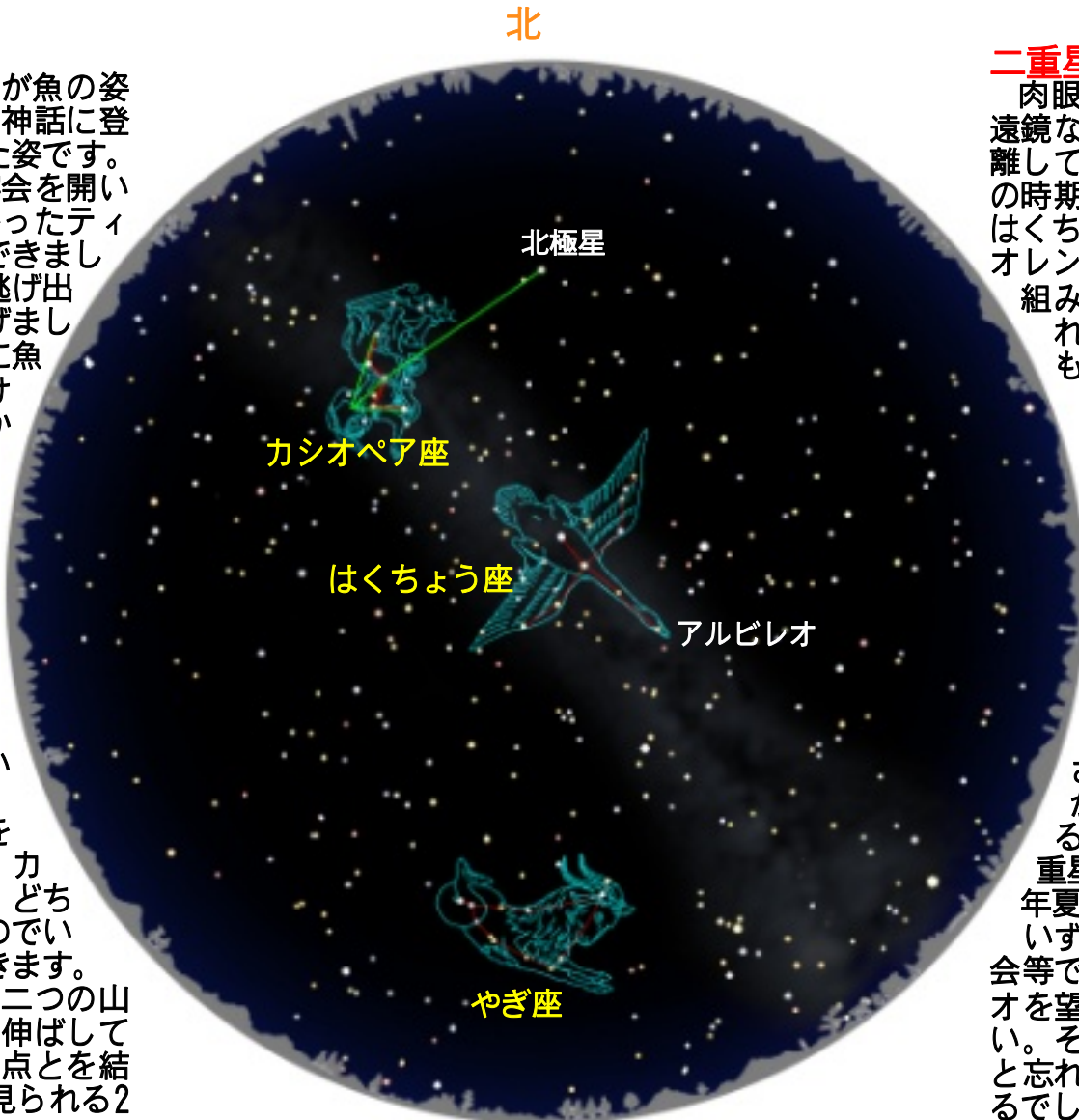
やぎ座は上半身がヤギで下半身が魚の姿をしています。これは、ギリシャ神話に登場する牧神パーンが変身に失敗した姿です。神話によると、神々が集まって宴会を開いているとき、この会に呼ばれなかったティフォンという怪物が怒鳴り込んできました。神々はいろいろな姿に化けて逃げ出し、パーンも姿をやぎに変えて逃げました。しかし、ナイル川を渡るときに魚に化けようとして慌てて呪文をかけたため、水につかった半身だけしか変身できなかったそうです。

南の空の逆三角形に並んだ暗い星々をながめてその姿を想像してみるのも楽しいかもしれません。

カシオペア座と北極星

カシオペアとは神話に登場する古代エチオピア王妃の名前です。日本では船を留めておく、いかりに似た形をしているため「いかり星」といいます。

北極星を見つけるのに北斗七星を利用する方法が知られていますが、カシオペア座を利用する方法もあり、どちらかの星座が北の空に見られますのでいつでも北極星を見つけることができます。カシオペア座をM字に見たときの二つの山の外側の両側の線を山の先端側に伸ばして交差した点と、M字の中央の谷の点とを結んだ線を5倍に伸ばしたところに見られる2等星が北極星です。



9月15日21時の星図

南

星図：ステラナビゲータ10/(株)アストロアーツ

二重星

肉眼では一つの星に見えるけれど、望遠鏡などで拡大すると二つ以上の星に分離して見える天体を重星といいます。今の時期に見られる人気のある二重星は、はくちょう座のアルビレオです。3等級のオレンジ色の主星と5等級の青色の伴星の組み合わせは「天上の宝石」とも言われ、宮沢賢治の「銀河鉄道の夜」にも「トパーズとサファイア」という表現で登場します。二重星は「連星」と「見かけの二重星(非連星)」に大別されます。連星は、お互いの重力で結びつきあっていて、共通の重心の周りをゆっくりと公転をしています。見かけの二重星は、見かけ上は近くに見えるけれども空間的には遠近方向に大きく離れていて、お互いの重力が及ぼし合いません。アルビレオの二つの星は、さほど大きく離れてはいないのですが、それぞれが独自の運動をしているという観測結果から、見かけの二重星であることが2018年夏にわかりました。

いずれにしても、観望会等で、是非、アルビレオを望遠鏡でご覧ください。その美しさは、きっと忘れられないものとなるでしょう。

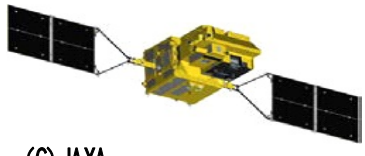


アルビレオ
はくちょうの「くちばし」という意味です

宇宙塾 報告

人工衛星から見た地球の姿

JAXAから空野正明先生をお招きして、8月17日(土)に実施しました「宇宙塾」にはたくさんの方に参加していただきました。気候変動(温暖化)メカニズム解明のために打ち上げられた気候変動観測衛星「しきさい」からの最新情報をもとに、現在の地球の現状についてわかりやすくお話をしていただきました。講演後には質問がたくさん出されました。時間の都合で、答えきれなかった質問項目につきましては、後日、空野先生より回答いただいた内容を博物館のホームページ等でお伝えして行きます。



(C) JAXA

プラネタリウムコンサート

♪名月とマリンバの夕べ♪

9月の満月の日の夜、マリンバの生演奏を当館5階GINGAPORT401(プラネタリウム)にて、満天の星とともに楽しみください。ムーンリバー、白鳥、ディズニー・メドレー等、広いレパートリーの曲を準備してお待ちしております。

日時：9月14日(土)
18時30分から20時
(開場18時15分)
場所：5階GINGAPORT401
(プラネタリウム)
定員：140席(自由席)
演奏：ヴァンルージュ
料金：一席600円(1階総合受付にて前売り中)



ガリレオ教室 報告

〈流星のひみつ〉

8月12日(月・休)のペルセウス座流星群観望会の前日に実施したガリレオ教室では、流れ星の正体や観察方法等について、映像や簡単な実験をもとに天文ボランティアに分かりやすく解説してもらいました。



★★観望会★★



《天文ボランティア主催観望会》 場所：勤労者・市民交流センター
9月7日(土) 19時から20時30分 「初秋の星空観望会」
※天候不良時は中止です。
※当日自由参加・無料です
※ぎらら号は出勤しません。

《博物館主催ぎらら号観望会》 場所：博物館前市民公園
①9月13日(金) 19時30分から21時 「中秋の名月を見よう(旧暦の8/15)」
②9月28日(土) 18時30分から20時 「木星と土星を見よう」
※天候不良時は中止です。
※当日自由参加・無料です

9月の月

6日		上弦
14日		満月
22日		下弦
29日		新月

編集後記

今年も暑い暑い夏が終わり、秋風が吹くようになるとススキの穂が銀色に輝き始めます。そして、夜空にはお化粧直しをしたような白い月が現れます。「中秋の名月」から始まる日本の秋のお月見には、芋や栗などの秋の収穫物が供えられます。秋の夜空には1等星は少なくなりますが、空高く輝き始める月が、夜空を見上げる人々を楽しませてくれます。